

学校だより 11月号



# 寺尾小だより



＜学校教育目標＞「自ら進んで 学ぶ子 仲よくする子 きたえる子」

＜11月の生活目標＞「本をたくさん読もう」

川越市立寺尾小学校

令和2年10月30日（金）

川越市寺尾979-2 TEL 049-245-9555 FAX 049-240-1765 E-mail:teraosho@city.kawagoe.saitama.jp

## 読書の秋～子供の頃の読書活動は、豊かな人生への第一歩！～

国立青少年教育振興機構の調査(H25.3)より

校長 長 澤 誠

各地から紅葉のたよりが聞かれるようになりました。校庭の桜の木も冬支度を始め、いよいよ秋が深まってきているを感じさせてくれます。10月14・15日には、6年生が修学旅行に行ってきました。天気にも恵まれ、紅葉の中、予定通り2日間の日程を終えることができました。また、27日の運動会は、時間と種目数を短縮して、低中高学年ごとに実施しました。短い時間でしたが、子供達は精一杯、演技や競技、応援に力を発揮していました。保護者の皆様方の温かい御声援に感謝申し上げます。コロナ禍における新しい生活様式での学校行事が軌道に乗ってきたように感じています。今後も校内音楽会や持久走大会などの行事が続きます。5年生の社会科見学も予定されています。引き続きの御家庭における体調管理をよろしくお願いたします。

さて、本校では、11月を読書月間と位置づけ、校内で読書の取組を行っていきます。（全国では10/27～11/9の文化の日を中心にした2週間に設定しています。）教職員の「おすすめの本」を図書室のショーウィンドウに掲示したり、「自分のベストブック」と題し、子供達が心に残った本の題名と感想を掲示したりします。また、引き続き、読書マラソンの取組を行います。8月号の学校だよりでも紹介しましたが、1枚30冊の本を読み終わり「校長先生！みてください」と校長室を訪ねる子供が多いです。10人以上来る日もあります。11月もどんな本と出会えるか楽しみですね。

しかしながら、最近は本を読むという行為が家庭の中ではどのように行われているのだろうと考えることがあります。それは、子供同士の会話にバラエティー番組で遣われている言葉やしぐさが目立ち、ゲームの話やYou Tubeの動画の話題が多いように感じるからです。高校生や若者の読書離れや活字離れが指摘されていますが、ややもすると子供達にも同じような傾向があるのかとも思っています。

国立青少年教育振興機構が行った調査では、子供の頃に「本を読んだこと」や「絵本を読んだこと」などの読書活動が多い成人や、現在までに「好きな本」や「忘れられない本」があると回答した成人は、1か月に読む本の冊数や1日の読書時間が多いという結果が出ています。つまり子供の頃の読書活動の経験が、その後に大きな影響を与えているというのです。先日、電車にりましたが、電車の中で本を手をしている人をほとんど見かけませんでした。子供達の本に親しむ機会を増やし、様々な形で刺激を受けながら一冊でも多く本を手にとってほしいと願っています。

読書は、子供達に新しい知識や様々な価値に出会う機会を与えてくれます。視野が広がって、考える力や創造力、表現力を豊かにしてくれます。子供が読みかけの本をもち、時間を見つけて読み続けるようになればいいなと思っています。読書は、子供達の心の栄養と言われます。子供達のために、できれば、一週間のうちの一日、テレビやゲーム機から離れ、家族でそれぞれが気に入った本を読む日を作ってはいかがでしょうか。